芽吹きの年，未来への挑戦

代表取締役社長兼 CEO　佐藤 朋由

2025年は，ジヤトコにとって「芽吹き」の年です．

ジヤトコエンジニアリング（株）との合併を経て新たな体制で迎えるこの年，私たちは確実に芽を育て，基盤を固め，ビジネスを拡大する一年にします．芽吹きとは，単なる始まりではなく，未来に向けた力強い成長の予兆です．創立55周年という節目を迎えた今，私たちは過去の信頼と技術を礎に，次の時代を切り拓く挑戦を加速させています．

この「芽吹き」を象徴するのが，今年を「e-Axle元年」と位置づけた電動化の取り組みです．電動化の中核技術であるe-Axleは，モビリティの未来を支える重要な要素です．私たちは，3-in-1 EVパワートレインと5-in-1 e-POWER電動ユニットを市場に投入し，電動車の効率と性能を大きく引き上げます．さらに新たな挑戦として，高出力密度化を狙った超小型e-Axleの技術開発も進めています．これらは，私たちが描く「すべての車輪にジヤトコのドライブユニットを搭載する」という夢に向けた確かな一歩です．

芽吹きの象徴：多様な挑戦

芽吹きの象徴は，e-Axleだけではありません．ジヤトコは，モビリティの枠を超え，社会全体の持続可能性に貢献する新たな事業を次々と芽吹かせています．

まず，移乗機構付き車いす「Lifmy」の国内での販売を2026年初旬に予定しています．高齢化が進む社会において，移動の自由は生活の質を大きく左右します．Lifmyは，単なる車いすではなく，利用者の自立を支援する革新的な機構を備えています．東京ビッグサイトで行われた国際福祉機器展での初披露では，多くの来場者から高い評価をいただきました．これは，ジヤトコが「人の移動」に真摯に向き合い，技術で社会課題を解決する企業であることを示す象徴的な取り組みです．

次に，中国市場への電動バイク用2速自動変速機インホイールモータードライブユニットの投入を間近に控えています．このドライブユニットは大変シンプルな変速機構にもかかわらず高効率な駆動性能を有していて，中国の山間部でのきつい勾配を楽々と走破し，重い荷物を乗せても力強く発進できるようなバイクに仕上がっています．「バイクを運転することの楽しさ」と共に「生活における移動の自由」を拡げます．今後，中国のOEMと共に中国以外の市場への拡販も狙っていきます．

また，電動アシスト自転車用2-in-1ドライブユニット「GA30」を搭載したモデルが，2026年春に国内で発売される予定です．都市部や観光地での新しい移動体験を提供するこの製品は，軽快な走りと快適な操作性を両立し，環境負荷の低減にも寄与します．自転車という身近な移動手段に，ジヤトコの技術が新しい価値をもたらすことで，私たちは「移動の楽しさ」を再定義しようとしています．

さらに，再生可能エネルギー分野への進出も芽吹きの一つです．中型風力発電機のナセルの発売開始は，モビリティを超えた新しい挑戦です．クリーンエネルギーの普及は，持続可能な社会の実現に不可欠です．ジヤトコは，これまで培ってきた駆動技術と制御技術を応用し，風力発電の効率化に貢献します．これは，私たちが「移動」だけでなく，「エネルギー」という社会の基盤にまで視野を広げている証です．

未来へのビジョン：すべての車輪にジヤトコを

私たちの夢は，「すべての車輪にジヤトコのドライブユニットを搭載する」ことです．これは単なる製品戦略ではなく，移動の可能性を拡げるビジョンです．自動車だけでなく，自転車，車いす，産業機械，さらには再生可能エネルギーの分野まで，ジヤトコの技術は多様な領域で価値を生み出します．

このビジョンの背景には，社会が直面する課題があります．カーボンニュートラルの実現，都市交通の効率化，高齢化への対応，そしてエネルギーの安定供給．ジヤトコは，これらの課題を「技術」で解決する企業であり続けます．電動化，ソフトウェア化，AI活用による新しい価値創造は，単なる製品開発にとどまらず，社会全体の持続可能性に貢献する取り組みです．

技術者へのメッセージ：芽を育て，森をつくる

2025年は，芽吹いた芽を確実に育て，強い幹へと成長させる年です．技術者一人ひとりの挑戦が，ジヤトコの未来を形づくります．芽を育てるには，時間と努力が必要です．しかし，その芽がやがて森となり，世界中の人々の生活を支える日が必ず訪れます．

私たちは，創立55周年という歴史を背負いながら，次の時代を切り拓く責任を担っています．グローバル展開を加速し，持続可能なモビリティを実現するために，ジヤトコは挑戦をやめません．ともに,移動の可能性を拡げる夢に向かって歩み続けましょう．